令和３年度　土地活用ハンズオン支援事業

岩手県大槌町「自然湧水を活用した移転元地の利活用の推進」

目的・背景

移転元地の自然湧水を活用した土地利用方策を検討

- 東日本大震災による被災や秋サケの不漁により町の主力産業である水産加工業が低迷しており、産業振興が急務。
- 湧水が豊富な移転元地を農林水産物の産地として活用し、新たな特産品としてのブランド構築と雇用の創出により、持続可能な地域づくりにつなげる。

位置図

航空写真

取組とその効果

1　サーモン養殖事業について、関係者間での意見交換・ビジョンの検討が行われ、町内で事業を着実に進めることで合意。町の新たな基幹産業として、雇用創出等に期待大。（令和4年4月より、これまでの試験運用から本格事業実施に移行）

2　移転元地に生息する希少生物保護の観点を踏まえ、湧水を活用した水耕栽培事業の事業可能性を検討。事業者候補の発掘など、事業化に向けた検討が大きく進展。

3　これらを着実に推進するため、町は新たに企業立地に向けた補助金を予算化。

取組の様子

事業実施主体候補へのヒアリング

取組経過

６～　１０月	マーケティング調査や事業実施主体候補へのヒアリング等による、サーモン養殖事業推進に向けた体制等の検討、関係者の意識醸成
１０～１１月	駅裏地区の移転元地活用と周辺に生息する希少生物保護を両立する施設整備に向けた関係者間調整（駅裏地区は水耕栽培施設立地の検討へ方針転換、サーモン養殖施設は他地区への立地を検討）
１１～　１月	マーケティング調査、関係者への意向調査による、水耕栽培事業の事業可能性の検討

取組成果イメージ

令和４年度よりサーモン養殖事業本格実施
（左：既存の中間養殖施設、右：海面養殖用いけす）

水耕栽培施設イメージ（写真は大槌町外）

今後の方向性

サーモン養殖事業：新たな養殖施設等の立地、地元雇用や生業再生の促進

水耕栽培事業　：担い手となる民間とのマッチング、栽培施設の立地、特産品化に向けた官民共同の検討